

ヤングケアラーの早期発見・把握と支援体制 の構築を

質問者 小川 龍 美

家族の世話を担っている18歳未満の子ども「ヤングケアラー」は、小学6年生が6.5%、中学2年生が5.7%、高校2年生が4.1%となっている。世話をしている家族がいる児童はいない児童よりも欠席や遅刻、早退をすると答えた割合が高く、不登校や学業不振、健康面への影響が懸念される。早期発見・把握と、相談体制や家事・育児サポート、コーディネーターの配置など、支援体制の構築が求められるが町長の所見を伺う。